

生活新聞

2001

Mar.30/No.337

博報堂生活総合研究所



eライフ・スタイル 2001

ITを使いこなし始めた生活者の今をつかまえる!

● クラスター分析から見てきた、最新eライフのリアリティ。

1998年当時、博報堂通信プロジェクトが「テレライフ・スタイル6分類」という分析資料を発表したことを覚えている人は、あまり多くないかもしれない。当時はNTTの分割を控えて、いわゆる「通信ビッグバン」が盛んに叫ばれていた頃だった。「テレライフ」とは、電話や情報通信を使いこなす生活を指した造語で、当時広島・中国地方で放映されていたTV番組名にあやかってつけられたタイトルだった。日本の生活者の「テレライフ」を6つの典型パターンに分類したその資料は、通信関連ビジネスの関係者の間に口コミで浸透していったが、すでに固定電話網を上回りそうな勢いを示し始めていたケータイに関しての、当時としてはちょっと目新しい分析などが新聞紙上に何度か取り上げられたりもした。その後2年の月日があっという間に流れた。かつては10年一昔だったが、いまや2年もあれば、通信環境は激変する。世の中には「IT」という言葉が生まれ、大流行になった。もはや「IT」は、通信関連ビジネス関係者だけのものではなく、あまねくすべての社会人にとっての関心事になってしまった。そしてインターネットやケータイの爆発的な普及によって、「テレライフ」は、「eライフ」と呼ぶべきものへと変化し始めた。「テレライフ」と「eライフ」の違いを一言でいうと、前者にはまだ「電話をかける」という意識が残っていたが、後者は「人や世界とつながるネットワークング」という意識がメインであるということだろう。

世の中には、実に様々なライフスタイル分析がある。世代ごとの価値観を分析したものや、ファッションセンスで分析したもの、あるいは特定の商品の使い方にフォーカスしたものなど。しかし、これだけ「IT」が当たり前のものになってしまうと、その他の要素で分析するよりも、それら「IT」に関する様々な行動や意識、つまり「eライフ」で生活者のライフスタイルを規定することができるようになってきたとは言えないだろうか。

今回、博報堂生活総合研究所の生活者調査パネル（HILLネット）の結果を用いて、このような2001年の「eライフ」の最新事情を把握するためのクラスター分析をしてみた。その結果、右のクラスター・マップのような6つの「eライフスタイル」が浮き彫りになってきた。

調査対象：首都圏40km圏内の19才～74才の男女個人
調査方法：HILLネットパネルに対する郵送留置き調査・自記入式
調査時期：2000年10月20日～11月3日
サンプル数：有効回収358

● 若い男性を中心に「新デジタルエリート」出現。若い女性はケータイ中心。中年男性は「ITフォロワー」。高齢層に「デジタルデバイド」発生。

今回の分析では、右のクラスター・マップのとおり、若者中心のクラスターが2つ、中年層中心のクラスターが2つ、そして高年層クラスターが2つ出現した。まず若者を中心にした「新デジタルエリート」型と「わがままダベリ・メール」型。次にもう少し年齢が上のところに、男性中心の「ITフォロワー」型と、ほぼ男女半々で「PC&ケータイ両立使い分け」型が位置し、さらに高年齢のと

ころでは、やや男性よりに「デジタル・デバイド」型、女性よりに「おトク敏感メール」型が現れている。全体には、男女中立的なクラスターが3つ現れ、典型的な男性型や女性型というタイプがそれほど多くなかったことが印象的だ。「eライフ」は、男女を少しづつ中性的にしてきているのかもしれない。

50代

40代

30代

20代

10代

タイプF デジタル デバイド型

構成比 20%
男女比 62 : 38
ケータイ通信費 ¥3435/月
IP通信費 ¥1004/月
変化や新しいことには
興味なし。ケータイも
インターネットも嫌い。

タイプB ITフォロワー型

構成比 14%
男女比 70 : 30
ケータイ通信費 ¥617/月
IP通信費 ¥789/月
ITは大事だと
わかってても苦手。
用件主義だけど本当は
音声の方がラク。

タイプA 新デジタル エリート型

構成比 22%
男女比 72 : 28
ケータイ通信費 ¥489/月
IP通信費 ¥1820/月
ネットでもモバイルでも
新しいものは何でも手を出す
ITトレンドセッター。

タイプC PC&ケータイ 両立使い分け型

構成比 15%
男女比 53 : 47
ケータイ通信費 ¥6259/月
IP通信費 ¥1171/月
ケータイもメールも
TPOに合わせて
上手に使い分けたい
オン/オフ使い分け派。

タイプD ケータイ ダベリメール型

構成比 14%
男女比 44 : 56
ケータイ通信費 ¥860/月
IP通信費 ¥861/月
話すのもメールするのも
いつもはケータイで。
ケータイは空気のような存在
難しいことは苦手。

タイプE おトク敏感 メール型

構成比 15%
男女比 32 : 68
ケータイ通信費 ¥3298/月
IP通信費 ¥1214/月
難しいことは
よくわからないが、
電話代が安くなるためなら
手段は選ばず。
メールに対しても
その気持ちは不変。

男性

男性
70%

男女比
50 : 50

女性
70%

女性

A

タイプ 新デジタル エリート型

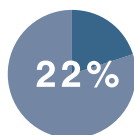
e-life profile

ケータイ所有率：76.9%
 ケータイ自体での
 インターネット実利用率：23.3%
 月々のケータイ通信費：7489円
 月々のプロバイダー通信費：1820円
 月々の固定電話通信費：7594円
 自宅インターネット普及率：59.0%
 会社・学校インターネット利用率：41.0%

●男女比



●全体に占める構成比



この人たちは、典型的な「雄型」情報生活者です。最近では「雄」化した若い女性層の流入によって平均年齢がかなり若返ったようで、社会の一般常識から少しずれていてもなお、デジタル革命を自らの手で推し進めるパワーを持った人です。

昔はもっぱら秋葉原に多かったのですが、最近は駅前立地のディスカウント電気店や郊外の大型電気店にもよく現れます。iモードのようなサービスもかなり使いこなし、とにかくなんでも買って使ってみることから始まる人たちです。

ネットでもモバイルでも
新しいものはとりあえず
check it!



●この人たち特有の消費行動・意識

MDプレイヤー所有率→**43.6%** (1位)
 家庭用FAX所有率→**65.4%** (1位)
 デスク型PC所有率→**56.4%** (1位)
 家庭用プリンタ所有率→**47.4%** (1位)
 ISDN回線契約率→**30.0%** (1位)
 電子メールは毎日の生活を深くと思う。→**YES 78.2%**
 電車の中でケータイを使う人がいても気にならない。→**YES 37.2%**
 新しく発売された情報機器を買ったり調べたりするのは楽しい。→**YES 91.0%**
 情報機器によっていつも人とつながってられる気がして楽しい。→**YES 75.6%**

B

タイプ ITフォロワー型

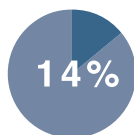
e-life profile

ケータイ所有率：47.0%
 ケータイ自体での
 インターネット実利用率：4.3%
 月々のケータイ通信費：4617円
 月々のプロバイダー通信費：789円
 月々の固定電話通信費：6503円
 自宅インターネット普及率：26.5%
 会社・学校インターネット利用率：20.4%

●男女比



●全体に占める構成比



この人たちは、2年前の「テレライフ・スタイル」の時から不変に存在していた「用件通話主義」の人たちです。昨今のITブームのことを疎ましく思いながらも、世の中に遅れまいと必死に戦っている企業

業戦士です。ケータイを持てば実はそこそこ使うのですが、Eメールはあまり信用していません。「アナログの美学」を未来に受け継ぐ頑固で稀有な存在として、今後も主張しつつづけてほしいものですね。

IT革命はわが社の命運も
にぎっているが、ワシは苦手だ。
やっぱり用件はフェース・ツー・フェースが
ないとな...



●この人たち特有の消費行動・意識

デジカメ所有率→**28.6%** (2位)
 CS放送受信機所有率→**24.5%** (2位)
 ISDN回線契約率→**8.2%** (最下位)
 デスク型PC所有率→**26.5%** (最下位)
 電子メールは毎日の生活を深くと思う。→**YES 18.4%**
 電話やメールは用件があるときしかつかわないようにすべきだ。→**YES 98.0%**
 正直にいうと、情報機器をどんどん使うような生活は嫌だ。→**YES 75.5%**

C

タイプ PC&ケータイ 両立使い分け型

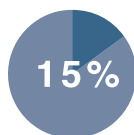
e-life profile

ケータイ所有率：66.6%
 ケータイ自体での
 インターネット実利用率：5.6%
 月々のケータイ通信費：5259円
 月々のプロバイダー通信費：1171円
 月々の固定電話通信費：5857円
 自宅インターネット普及率：38.9%
 会社・学校インターネット利用率：40.8%

●男女比



●全体に占める構成比



世の中がeライフ化したことで突然生まれた新種の層です。電話のような音声でのコミュニケーションを大切にしつつも、自分の用途に合わせてメールやインターネットも両立して使い分けようとする意識があります。機器のデザインや使い勝

手にはうるさいので、自分流の感覚に合わないものは遠ざけます。でも実はiモードのような新種のサービスのことをまだうまく使いこなせていないでいます。また、会社や学校といった公的な場とプライベートな場のネットワークも使い分けします。

ケータイもPCもメールも
 TPOにあわせて上手に
 つかいこなさなくちゃ...



●この人たち特有の消費行動・意識

ノート型パソコン所有率→**35.2%** (2位)
 声のコミュニケーションは今後、どんどん減ると思う。→**NO 90.7%** (1位)
 電話やメールは用件があるときしかつかわないようにすべきだ。→**NO 96.3%**
 デジタル機器は少し価格が高くてもオシャレなデザインがいい。→**YES 59.3%** (1位)

D

タイプ ケータイ ダベリ・メール型

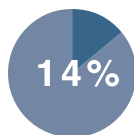
e-life profile

ケータイ所有率：84.3%
 ケータイ自体での
 インターネット実利用率：9.3%
 月々のケータイ通信費：7860円
 月々のプロバイダー通信費：861円
 月々の固定電話通信費：6422円
 自宅インターネット普及率：47.1%
 会社・学校インターネット利用率：37.2%

●男女比



●全体に占める構成比



この人たちは、とにかく「ポケットeライフ」な人たちです。PCのようなメカメカしいものが大嫌い。また、べたべたした長電話とか、重たいデータのダウンロードも好きじゃない。何でも軽いあいさつメール感覚、ゲーム感覚。まさにケ

ータイ・メール生活の申し子たちです。男女比もかなり半々に近く、もはやコギャルたちだけの文化ではなくなってきました。21世紀型のネットワーカー予備軍かもしれません。

ケータイは空気のような存在。
 いつもはだみはなさず"
 メールやおしゃべり。
 でもキカTは苦手。



●この人たち特有の消費行動・意識

最近のゲーム機所有率→**25.5%** (1位)
 電子メールは毎日の生活を幅広くするものだ→**YES 96.1%**
 インターネットを楽しむにはPCが絶対必要だ。→**NO 31.4%** (1位)
 声のコミュニケーションは今後どんどん減ると思う。→**YES 70.6%** (1位)
 電話やメールは用件があるときしかつかわないようにすべきだ。→**NO 98.0%** (1位)
 電話やメールは用件がなくてもおしゃべり感覚で使いたい。→**YES 96.1%**
 正直にいうと情報機器をどんどん使うような生活は嫌だ。→**YES 90.2%** (1位)

E

タイプ おトク敏感 メール型

e-life profile

ケータイ所有率：51.9%
ケータイ自体での
インターネット実利用率：10.7%
月々のケータイ通信費：3298円
月々のプロバイダー通信費：1214円
月々の固定電話通信費：5536円
自宅インターネット普及率：46.3%
会社・学校インターネット利用率：20.4%

●男女比

男性	女性
32%	68%

●全体に占める構成比

15%

この層は、デジタルエリートと対極にある典型的な「雌型」生活者です。何よりも倹約とモラルが第一で、事実通信費の節約ぶりは数字になって表れています。彼女たちが電話からメールに乗り換えた理由はすばり「そのほうが安いから」。でも、

おしゃべり欲求は旺盛ですから、まさにお手紙感覚でメールを使っているようです。機械モノには興味がないわけですが、案外インターネットもケータイも持っています。とにかく「今あるものを使う」「原理を知らなくても使う」専門家たちです。

難しいことはよくわかりませんが
とにかく電話会社はインターネットも
長距離も安いのがイチバン
なのよ!!



●この人たち特有の消費行動・意識

ほぼたいていのデジタル機器の所有率が最下位。

電話や電子メールは気軽なおしゃべり感覚で使いたい。→YES 96.3% (1位)

電車の中などで携帯電話を使う人がいても別に気にならない。→NO 87.0% (1位)

正直にいうと情報機器をどんどん使うような生活は嫌だ→YES 77.8% (2位)

F

タイプ デジタル・ デバイド型

e-life profile

ケータイ所有率：45.9%
ケータイ自体での
インターネット実利用率：9.1%
月々のケータイ通信費：3435円
月々のプロバイダー通信費：1004円
月々の固定電話通信費：6299円
自宅インターネット普及率：32.0%
会社・学校インターネット利用率：26.4%

●男女比

男性	女性
62%	38%

●全体に占める構成比

20%

この層の特徴はデジタル機器の新しい使い方に完全に乗り遅れてしまっているということです。新しい機器の新しい使い方存在自体が好ましくないものだと信じこんでいるので、せっかくいろいろな機器に囲まれていても、ちっとも楽しさや便利さを感じることができていない

ようです。このような問題は機器の普及そのものというよりも、多分にメンタルな問題であったりモラル的な問題であったりするようです。既存の価値観と新しい環境の間でさまよう、ちょっとかわいそうな状況と言えるかもしれません。

ネット革命といいまわが...
最近の新しい通信には
ついていけませんよ...
できればあまり変化はしないで
ほしいものですなあ...。



●この人たち特有の消費行動・意識

家庭用FAX所有率→61.1% (2位)

電子メールは毎日の生活を深くするものだと思う。→YES 11.1% (最下位)

電話やメールは用件がなくても気軽なおしゃべり感覚で使いたい。→YES 4.2% (最下位)

電車の中などで携帯電話を使う人がいても別に気にならない。→YES 12.5% (最下位)

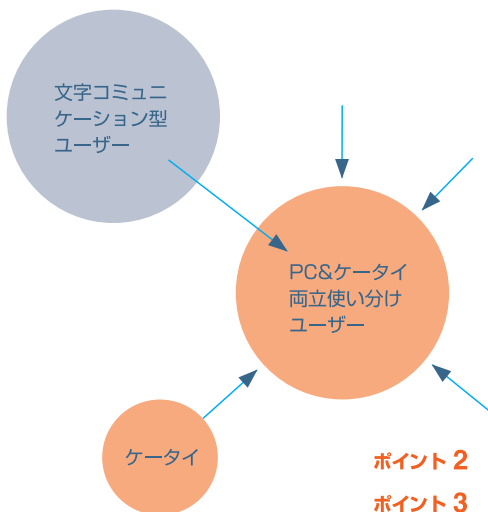
情報機器によっていつも人とつながってられる気がして楽しい。→YES 5.6% (最下位)

●この2年間での変化比較

2年前の「テレライフ・スタイル6分類」との比較の中から、ここ最近で注目すべきポイントを4つピックアップしてみた。

ポイント1 PCとケータイの使い分け層の出現。

今回のクラスター分析では、音声コミュニケーションを大切にしながらもメールを使っているとする「PC&ケータイ両立使い分け」型が新しく出現してきた。このタイプはほぼ男女半々であり、しかも30代がメインになっていることから、おそらくもともとは大人しいパソコン通信型ユーザーのような層だったと思われるが、昨今の急激なケータイの普及によって、徐々にPCとケータイの両方を持つ状況にいたって、その上手な使いわけを模索しているのだと思われる。今後、このようなタイプのユーザーが日本では徐々に増殖してゆくのは間違いないだろう。

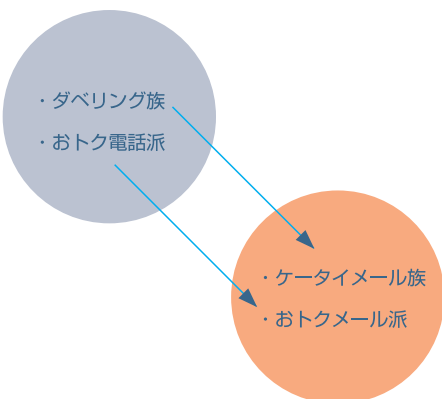


ポイント2 若者のダベリング・パワーはメール派に変わった。

ポイント3 おばさんたちもメール派になったが、おトク敏感意識は顕在。

2年前は女の子を中心にした「わがままダベリング」型というのが存在していたが、今回はそれが男女半々になり、しかも音声を手放してメール型になっている。べたべたした人間関係を嫌う現代の若者のライフスタイルに、ケータイ・メールはまさにジャストフィットしたということだろう。しかし、彼らのコミュニケーションの元パワーが「ダベリング欲求」であることに変化はなく、今後もケータイ文化を成長させる原動力になりそうだ。

同じような変化は実はおばさんたちの層にも現れている。かつて長距離電話を少しでも安くすることで電話代を抑えたいと考えた彼女たちは、今はメールを使うことで電話代を抑えたいと考えようになったようだ。しかし元々の動機は不変であることが面白い。



ポイント4 「デジタル・エリート」と「デジタル・デバイド」の両極端が増殖中。

世の中のITブームのせいであろうか。何でもデジタルなことに興味を持つ「デジタルエリート」型が全体として増加しているようだ（2年前は構成比13%→今回22%）。また、その裏腹のように、デジタルなことになんとも積極的な興味が持てない「デジタル・デバイド」型も増加している（2年前16%→今回20%）。

<http://www.athill.com>

生活総研20周年。生活者アーカイブ誕生。

1981年以來の生活新聞、要約が読める。

過去3年間の生活新聞、PDFで読める。

生活予報、調査年報、生活定点の要約も。

消費意欲指数、満足度、不満度も読める。

生活者情報の21世紀型オープン・インフラ。

